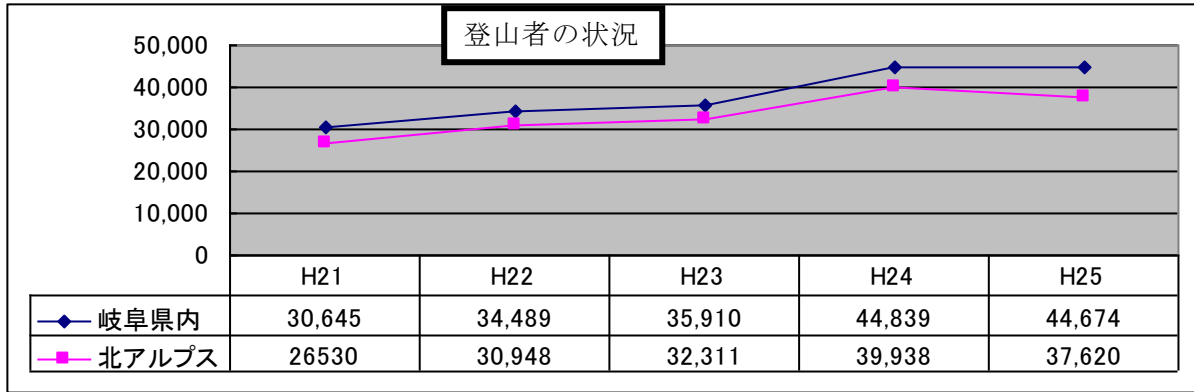


登山者及び山岳遭難事故の状況

1 登山者の状況

- 中高年を中心とした登山ブームを背景に、平成21年は3万人であった登山者が、平成25年には平成21年と比べ約1.5倍となる約4万4千人と急増している。
- 県内における登山は、その85%以上が北アルプスへの登山者である。



※ 岐阜県警地域課調べ（提出された登山届より算出）

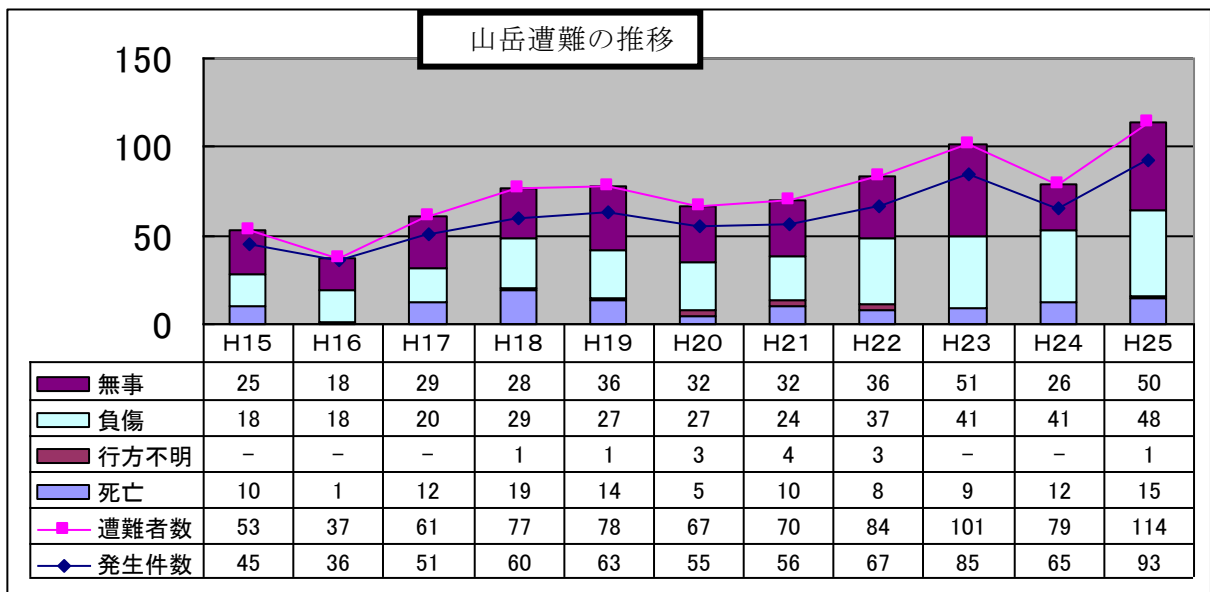
※ 長野県、富山県の登山者の状況

	H21	H22	H23	H24	H25
長野県	521,000	596,000	638,000	705,000	—
富山県	1,587,500	1,513,500	1,266,200	1,323,200	—

※山岳遭難統計（長野県）、山巔（富山県）より

2 山岳遭難の推移

- 近年では、登山者数も中高年層を中心に増加傾向にあり、これに比例して遭難事故も増加している。
- 県警の「稜線」によれば、遭難事故は平成10年までは年間30～40件代で推移していたが、以降は年間50～60件代に増加し、平成25年には発生件数93件、遭難者数114人と過去最多を記録するなど大変憂慮すべき状況にある。



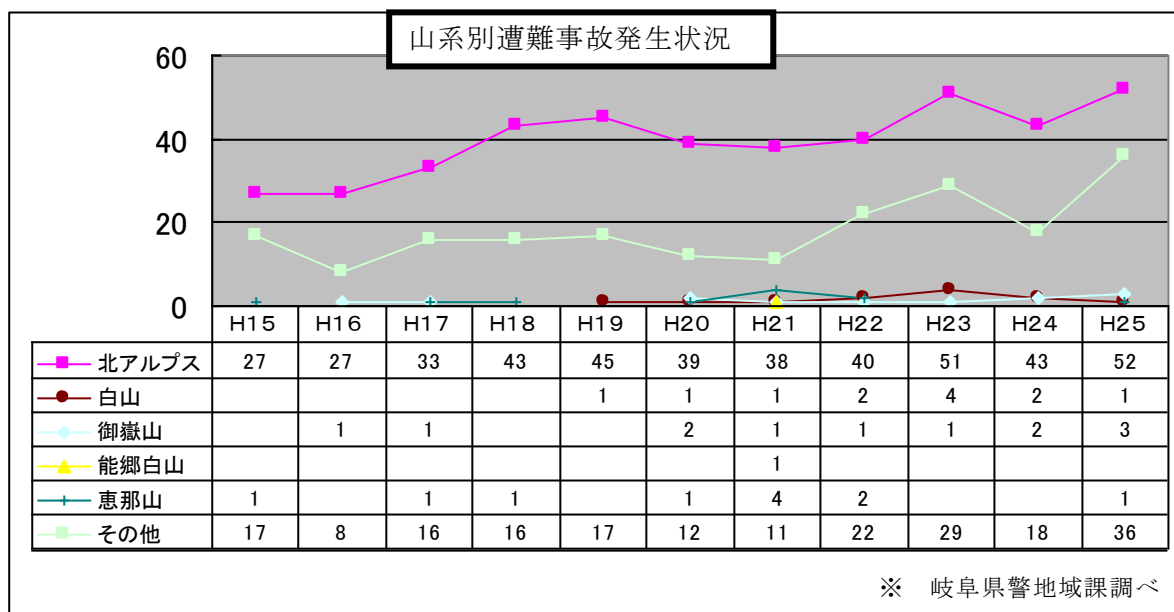
※ 全国及び隣接県（長野県・富山県）の発生状況

区分		H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
全 国	発生件数	1,358	1,321	1,382	1,417	1,484	1,631	1,676	1,942	1,830	1,988	未発表
	遭難者数	1,666	1,609	1,684	1,853	1,808	1,933	2,085	2,396	2,204	2,465	未発表
長 野	発生件数	179	139	166	173	166	182	173	213	227	254	300
	遭難者数	203	158	173	222	179	199	186	231	251	279	328
富 山	発生件数	118	102	91	107	113	117	133	122	116	107	128
	遭難者数	135	111	96	115	119	138	159	131	132	117	157

※ 警察庁地域課、長野県警地域課、富山県警地域課調べ

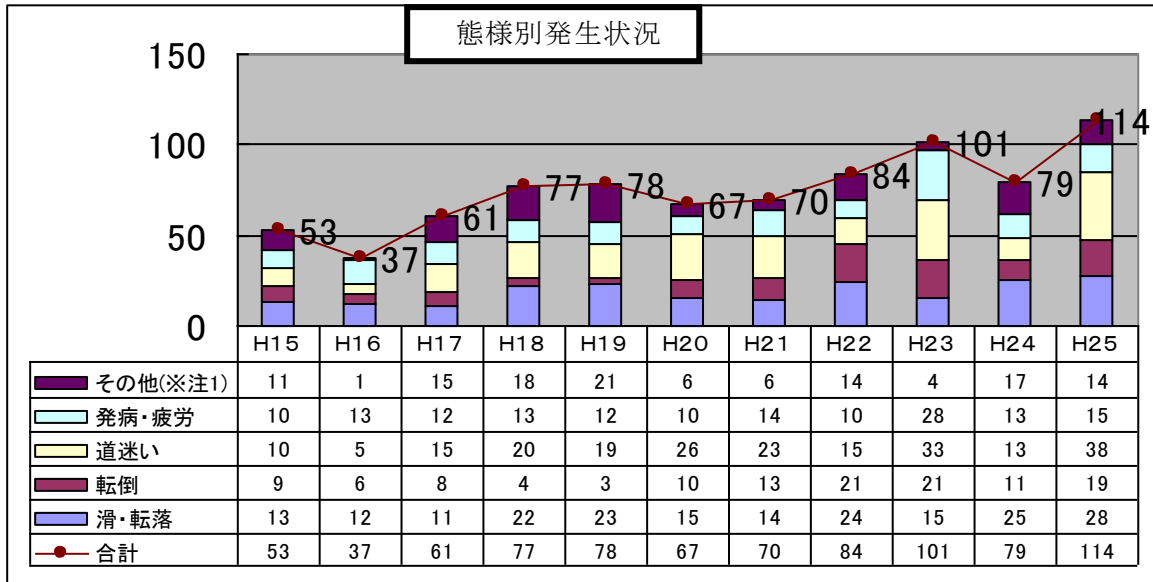
3 山系別遭難事故発生状況

- 岐阜県内で発生した遭難事故の約6割が北アルプスで発生している。
- 主要山岳以外の「その他」（金華山、鳩吹山、夜叉が池等）の山域における遭難事故が増加傾向にあり、平成25年は発生件数36件（昨年比+18件）と大きく増加した。



4 態様別発生状況

- 例年、滑・転落、転倒による遭難事故が多い。特に平成25年は、下山中の転倒や低山での道迷いが増加した。
- 平成25年中は発病による救助要請が増加した。死亡15人中4人が50歳以上の発病による死亡である。

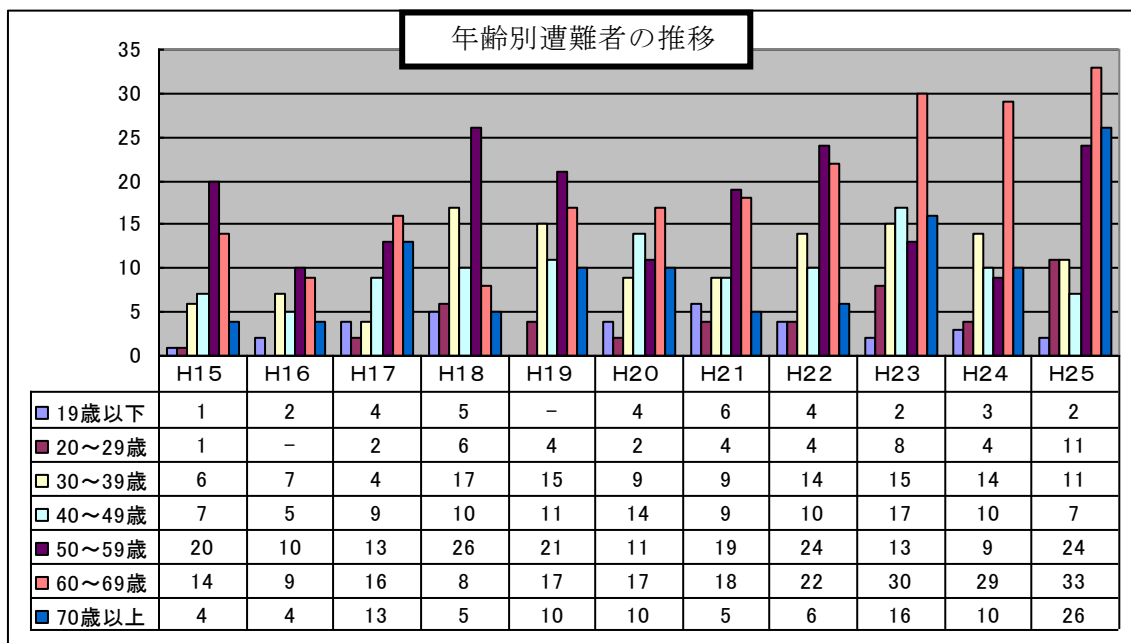


※注1 その他は、悪天候、落石、動物（熊）等

※ 岐阜県警地域課調べ

5 年齢別遭難者の推移

- 依然として40歳以上の中高年登山者の遭難事故が半数以上を占める。
- 平成25年は70歳以上の遭難事故が目立った。

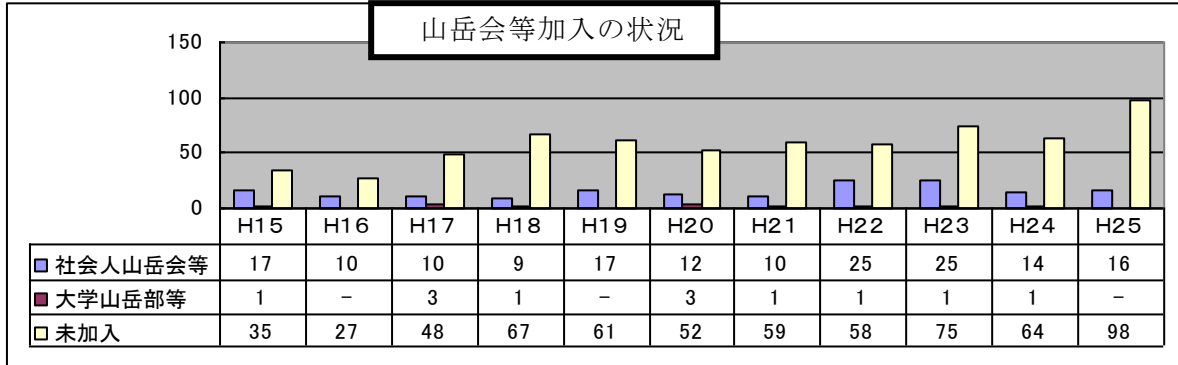


※ 岐阜県警地域課調べ

6 山岳会等加入の状況

- 山岳会等組織未加入者の遭難事故が7～8割を占めている。

組織未加入者の遭難が多いのは、組織に属さないことから、経験者から学習・訓練を受ける機会がなく、登山知識や技術を習得していない登山者が増加していることが原因と考えられる。



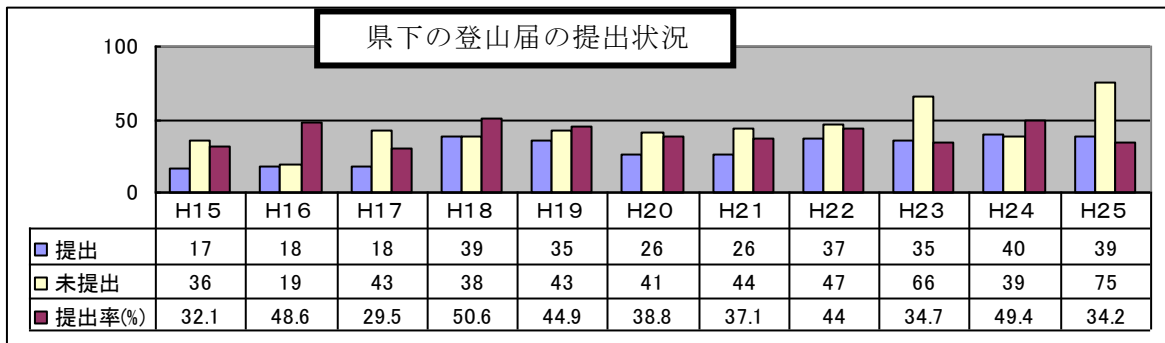
※ 岐阜県警地域課調べ

7 登山届提出状況

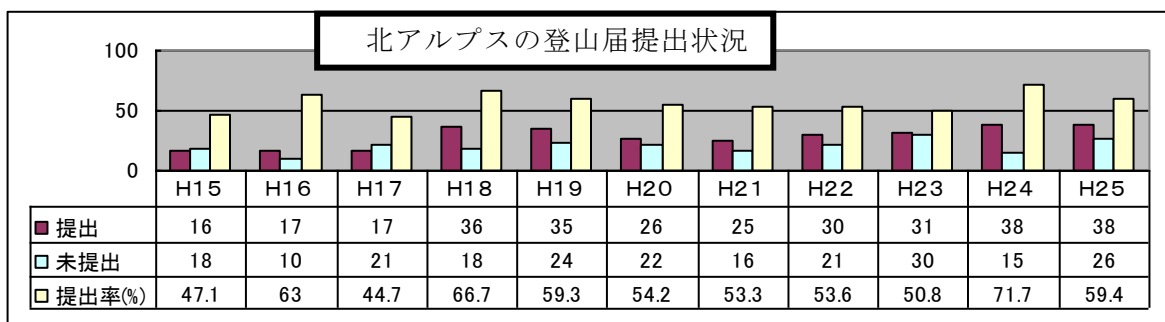
- 北アルプスにおける遭難者の登山届提出率は増加傾向にある。

- 県下で見ても、登山届未提出者の遭難事故が高い比率を占めている。

特に、平成25年は未提出者が提出者の約1.5倍になっており、これは金華山等の低山における遭難事故の増加が原因と考えられる。



※ 岐阜県警地域課調べ



※北アルプス登山届提出状況は山岳白書による

8 捜索救助の状況

- 遭難事故の増加に比例し、遭難救助出動件数も増加しており、平成25年には10年前（平成15年）と比べ出動人員も2倍以上と増加した。

区 分		H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
発生件数		45	36	51	60	63	55	56	67	85	65	93
警察	出動件数	43	32	50	57	60	55	54	66	85	60	93
	延べ出動人員	426	236	613	931	648	723	717	956	909	788	958
救助隊	出動件数	19	10	21	31	32	24	19	40	38	39	31
	延べ出動人員	50	22	72	138	115	102	91	216	118	146	111

※ 岐阜県警地域課調べ

9 ヘリの出動状況

- 平成25年は防災ヘリ等の出動が前年の3倍と大きく増加した。
これは金華山等の低山における救助要請が増加したことが原因である。

区 分		H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
発生件数		45	36	51	60	63	55	56	56	67	85	93
出動件数		24	21	32	44	32	36	36	36	49	45	64
出動回数 (延べ)	県警ヘリ	24	19	35	86	30	42	42	65	62	58	61
	防災ヘリ等	1	4	6	5	6	5	5	7	3	6	18

※ 岐阜県警地域課調べ

10 遭難者の特徴から見えてくる課題

(1) 体力や健康の衰えを認識していない「中高年登山者」が多い。

- 遭難事故の7割以上が中高年層の登山者である。
- 若い頃の成功体験と、現在の体力や健康とのギャップを認識していない計画や行動が見られる。
- 体力不足のための疲労が原因と思われる、下山中の転倒事故が増加している。
- 登山中における発病が増加している。

(2) 登山知識や技術を習得しておらず、山の怖さを知らない登山者が増加

- 組織に属さないため、経験者などから学習・訓練を受ける機会が少なく、山のルールや常識を知らない。
- インターネットでは、個人の成功体験、山の醍醐味が多く発信されているが、危険情報や専門知識の情報量は少ない。
- ツアーの増加など登山のレジャー化により、観光旅行の感覚で訪れる登山者が増加し、「登山は自己責任で行うもの」の意識が希薄化している。
- 携帯電話の普及により、安易と思われる救助要請が増加している。

(3) 県外居住登山者の遭難事故が多い。

遭難者の約8割が県外居住者であることから、安全登山の広報啓発は大都市圏を中心に県外での発信が必要。（平成25年中は、遭難者114人中88人が県外）